

令和6年度 第2回 恵那市自立支援協議会(全体会)会議録

日時:令和7年3月10日(月) 午前10時30分～

場所:恵那市役所西庁舎3階災害対策室 AB

出席委員:伊佐地委員(会長) 横光委員(副会長) 八澤委員(遠山委員代理) 堀部委員 西尾委員
富田委員(齋藤委員代理) 田中委員 小川委員 山邊委員 加藤(信)委員 水野委員
樋田委員 松田委員 南委員(加藤委員代理)

欠席委員:寺澤委員 三宅委員

事務局: 恵那市社会福祉課 課長 沼田
恵那市社会福祉課 係長 島崎
恵那市社会福祉課 主査 長谷川
恵那市子育て支援課 総括主査 大島
恵那市社協障がい者相談支援事業所 相談員 渡邊
恵那たんぽぽ地域生活療育支援センター 相談員 青木
恵那市福祉事務所長 所長 古山

内容: 1 あいさつ

2 議題

(1)第4次恵那市障がい者計画進捗状況(令和6年度障がい関係報告)

(2)令和6年度要望について

(3)その他

3 閉会

1 あいさつ

事務局(課長)	ただいまから、令和6年度第2回目の恵那市自立支援協議会の会議を進めて参る。進行を務める社会福祉課長の沼田という。 今日は第4次恵那市障がい者計画進捗状況について報告する。 本会議の議題の中心は、本計画の事業評価について進めたい。 それでは古山福祉事務所長から挨拶をお願いします。
事務局(所長)	恵那市福祉事務所長の古山という。本日は、第4次恵那市障がい者計画の進捗状況の報告と、昨年8月22日に障害者団体の皆様から色々な要望書を頂いた状況などを報告する。すべてを一遍には出来ないが、出来ることからひとつづつ着実に進めていきたい。皆様の忌憚のない意見を頂きたい。よろしくお願いします。
事務局(課長)	それでは議事にはいって行く。項目としては3項目。 本協議会の委員長に進行を代わる。

5-(1)第3次恵那市障がい者計画の事業評価について

会長	議題2-(1)第4次 恵那市障がい者計画進捗状況について、事務局お願いします。
事務局	議題2-(1)に基づき説明。
会長	質問はないか。

委員	部会について、どのような内容か。参加している方の意見を聞きたい。
事務局	<p>精神ケア部会について。</p> <p>事務局、保健所、基幹相談支援センター、健幸推進課等のメンバーが集まって、今年度3回開催した。前年度にリーフレットを作成するという計画のもと、今年度は完成に向けて話し合いをおこなった。8050 問題の対象の方やひきこもりの方、行政など関りの無い方が、リーフレットを見ることで相談できる場所を提供できるよう、現在校正段階である。次年度の当初の自立支援協議会で配布予定。</p> <p>事業所部会について</p> <p>3月6日に事業所見学へ行きたいという声があったので、アンケートで見学に行きたい事業所を募り、視察を行った。事務局として参加した恵那たんぽぽ地域生活療育支援センターに感想をお願いする。</p>
事務局	<p>事務局として参加した。1 つは、可児市にあるけやき。市役所の中に、食堂、喫茶店のような形で、スタッフ3名みえた。うち2人がスタッフで一人がB型の利用者。違う所で作って、その場で提供するスタイル。11時頃伺ったが、市の職員などお弁当を買う方や食事をする方で賑わっていた。2 つ目は多治見市のグループホームアイポイント。自立に向けて頑張っている方のサポートをしている感じ。このあたりのグループホームとは少し違う感じで、参考になった。株式会社が運営しているので、必ず採算がとれる仕組みづくりを聞いた。そこで暮らして一般就労されてる方やA型、B型頑張っている方が、自立に向けて頑張ってみえる様子が見えた。3 つ目はほしのカフェ。土岐市役所内にあるカフェ。B型に登録している方が40名いてシフト制で20名の方が交代で働いていた。多い方は賃金が7万円ほど。非常にきれいでB型がやっているという看板もない。普通のカフェという感じで経営して、こういう働き方もあるだと参考になった。他市の状況を見ることで、刺激になり、参考になることが多かった。道中、事業所の方々と交流もでき有意義な研修であった。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>事業所部会について、次年度新しい事業所が出来るので見学や、制度の勉強会を行いたいと考えている。</p> <p>くらし部会について</p> <p>何回か開催をしたが、周知と内容について十分ではなかった。次年度はテーマを決めて、多くの方に開催していただけるよう検討する。</p> <p>こども部会について</p> <p>3月6日に開催した。事業所や学校関係者の参加があった。</p>
事務局	<p>相談支援事業所、サービス事業所の代表者と教育関係ということで、特別支援学校の地域支援センター長と教育委員会の方々に出席していただき、今の現状について話した。令和2年2月の開催を最後に開催していなかった。今の状況や来年度の課題について話し合いをした。その中で、療育に関するパンフレットの作成の提案があった。来年度は、パンフレットの作成と療育の利用にあたっての基準について検討していく予定。</p>
事務局	<p>権利擁護部会</p> <p>今年度開催が出来なかった。来年度は包括支援センターなどと合同で研修会を予定している。</p>
会長	それぞれの部会で活動してみえる。精神ケア部会はリーフレットを次年度の会議で配布できる予定ということでもいいか。

事務局	はい。
会長	それぞれ部会の報告をおこなった。他に。
委員	私はくらし部会の委員だが、3回もあったということは知らなかった。前は日にちが決まっていた。いつ開かれているか、ホームページ等載せられていると思うが、自分は見ない。開催の日にちを、もう少し分かるように案内して欲しい。自分は当事者団体だが、くらし部会で問題を出して、各方面に聞いていただきたい。障がいを持った方の参加が少ないが、そういった方に開催していることの周知をしてほしい。ホームページ掲載していると言われるとそれまでだが、見ていない人のが多い。
事務局	周知の方法を検討する。
会長	ホームページだけでは見ていない人もいる。くらし部会は多くない人数なので、参加できるような形で進めてほしい。
委員	今回は6年度の振り返りしていただいた。7年度にはこうあったほうが良いという文言もある。それぞれの委員方がどこの部会に所属しているのか。テーマも明確にしないと役割を果たせない。年度ごとに自立支援協議会という役割と部会役割を明確することが必要。くらし部会に参加したが、事務局の会議になっている。テーマや提案を聞き入れて部会を開催するためには、どこの部会にどのテーマ参加しているのか明確することが大切。役割を分かっていないとただ開かれて参加している委員会になってしまう。ひとつ一つのテーマ、困難事例を取り上げていく、制度や行政から抜け落ちてしまっているようなことを、関わっている皆様から提案してほしい。遠慮せずに、部員であることが自覚できるような運営をお願いしたい。
会長	どこの部会に所属しているか、部会の役割を分かる形で報告をお願いしたい。他に質問はないか。
委員	福祉ゾーンについて。合同会社おひさまの放課後等ディサービス、和貴の森の自立訓練、宿泊型自立訓練・短期入所を始められる。和貴の森はどういった会社か。スポーツ交流会を10月15日に開催した。参加が少なかったのは、日にちが既に決まっていた。事前に実行委員会を開催して、日程から開催して欲しい。
事務局	和貴の森について 開設者は大井町の和貴プランニング。代表者は柳瀬貴夫氏。会社の設立は2021年4月。自立訓練というサービスは東濃では聖十字病院の関係の事業所1箇所。特に精神的な疾患持った方が、2年間の中で地域での生活を訓練するような施設を作られた。先日、恵那市議会の議員の方々が視察に行かれた。建屋はほぼ建った状況。
会長	場所はどこか。
事務局	恵光園のほぼ裏。
委員	せっかく恵那市にできるので、恵那市の障害者の方が利用出来るように、周知してほしい。
事務局	利用については、自立支援給付の支給決定のもとで、ケアプランに基づいてサービスを受給するので、相談支援事業所には始まるということを知り、利用者の方々にも伝えていきたい。障がいのテーマに合ったサービス利用に繋げていきたい。民間の施設になるので、病院等にも周知など活動してみえることは聞いている。
委員	精神の方が主なのか。
事務局	精神や知的といった、日常の生活が一人では難しい方が主となる。
委員	費用について。

事務局	自立支援給付の範囲になる。
会長	パンフレットなど出来たら見てもらいたい。
事務局	スポーツ交流会について、今年度はボッチャ協会との日程の調整で、日にちが決定した状況での開催になってしまい申し訳なかった。次年度は、早めに調整をするように、スポーツ課や体育連盟に声をかけていく。
会長	皆さんが参加できるように開催をお願いしたい。 合同会社おひさまの方から説明をお願いしたい。
委員	令和7年4月合同会社おひさまでは移転という形で、恵那病院から少し下がったところにあるりんこキッズビルディング2、放課後等ディサービスと児童発達支援の福祉事業所が名称を変えて場所が変わったというかたちになる。敷地は広がる。多くのお子様に充実したサービスが受けれるように考えている。
会長	社協も近くでやっていますね。
委員	はい。
委員	事業所形態は一緒です。
委員	どちらも県の補助を受けて施設整備をしたとか。同年度で恵那市2件取れたということか。
事務局	県のホームページをみていただくと分かる。県の補助というか国の補助になるが、秋と春、年に2回くらい補助決定される。そこで機会を分けて決定があったと聞いている。同じタイミングではなく秋と春に分かれて決定されたと聞いている。
委員	補正で通ったとか。
事務局	そのとおり。
会長	他よろしいか。 続いて、令和6年度要望について、事務局にお願いする。

2-(2) 令和6年度要望について

事務局	議題 2-(2)に基づき説明。 令和6年度要望について説明
会長	令和6年度要望の回答について。これはいつ回答するか。
事務局	3月19日に団体へ回答を渡す。
会長	この要望で何か検討するということか。
事務局	そうではない。報告です。
会長	こういった形で報告するという意味合いで出された。
事務局	補足をさせていただく。自立支援協議会では当事者の要望を紹介することがなかった。障害者団体をはじめ視覚や聴覚などの団体から、市長と議長宛に直接要望をいただく。今までこういった当事者団体の声を、自立支援協議会の中で伝えることがなかった。先ほどのくらし部会の話に繋がる。11月25日にくらし部会を開催した。副委員長の横光さんに来ていただいた。たんぼぼの青木さんも来ていただき、自分も参加した。その頃、要望を受けて回答をまとめている時だったので、自立支援協議会でお伝えして、委員の方の意見を伺ったらどうだろうという話をして、今日話をさせていただいた。山邊さんにもメールで連絡はさせて頂いたが、アドレスが違っていたのかうまく伝わらず、5人ほどでの開催であった。当事者の声をということが、委員の皆さんから出ている。皆様にもこういった団体の方から要望が出ていることを知っていただき、恵那市としてどうしていくといいのか声をお聞きたい。そういう趣旨である。

会長	今までは、こういったことはなかったということか。
事務局	3年間この会に出席したが、皆さんにお伝えすることはなかった。それ以前もなかったと思う。この機会に資料提供した。
会長	これについて意見はないか。
委員	いろんな団体から要望を受けて、恵那市がひとつひとつ向き合って一緒に考え、良い方向に向かっている。感謝している。世の中が変わる中、デジタル化の話。教室を開いて30名近く集まる。今後障害者の方がお使いになりたいという方がみえるのではないかと思う。来年度も考えているということだが、どこか一カ所に集まってやられるのか。何か計画があるのか。聴覚障害の方にも対応されていて嬉しいことだと思う。
事務局	スマホ教室について、当初高齢者向けに開催した講座を、障害者の方も含めて開催した。視覚障害の方は、障害者向けスマホ教室の参加は難しいということで、アソシアに依頼をした。アソシアもいろんな情報を持っているので、アプリの説明など、いろんなことを学ぶ機会になった。情報課も取り組んでいくということで計画をしているので、次年度も詳細が決まり次第、お知らせしていきたい。
会長	他の方どうか。
委員	各団体からの要望に応え、取り組んでいただいていること頼もしく思う。タクシー券であれば重度の方はまとめて使ってもいいこと、免許のこと、日常生活用具のこと。団体へ要望の回答をして、これで伝えることは出来るが、他へも、もっと周知をしていいのではないか。当事者のところに声が届かなければ、使えない。どういう形で。ホームページで周知したら届くかといったら、皆さんがチェックをしているかといったらそうではないと思う。それぞれの事業所や相談事業所が、移動が困難な方など把握していれば、周知できると思う。個々になのか、事業所、団体に伝えるのか。利用して初めて生きてくる。日々こういった要望に応えていただいているという行政の姿勢も含めて、身近になっていくような工夫をしてほしい。
事務局	ありがとうございます。まず4月から変更になるものは、広報えなに掲載させていただく。ホームページにも載せる。窓口にチラシを置く、計画相談事業所に周知をするなど、いろんな方法で検討していきたい。
会長	当事者の方、皆さんへ周知することは難しいが、よろしく願いたい。要望についてご承知おき願う。その他について。

2-(3)その他

事務局	恵那保健所より「にも包括について考えていませんか」というチラシが保健所より配布された。活用していただきたい。
委員	これができた経緯は、高齢者の方だと介護保険のネットワークがあり、障害者の方だと障害者のネットワークがある。精神については法的にネットワークが無い。これはそれぞれの地域で、それぞれに繋がっていき、関係者も地域で住む人も、本人も家族も。ということで全国的に展開していく。私でも、これからなりゆる病気であるということ。病気である人もない人もみんな自分で自分を大事にしながら生活をするまちづくりを目指していこうということで、展開している。岐阜県の中でも東濃5市については、各市に精神ケア部会のようなものができているので、そちらの方々に集まっていただき、東濃保健所、恵那保健所が事務局になった形で、にも包括を皆さんに知っていただくためにリーフレットが必要ではないかということで作成した。恵那市は社会資源のこと、それぞれの市がいろん

	<p>な形でリーフレットを作られるようだが、東濃5市では、市で回っていくが、管内としても周っていくよ。一人で孤立しているのではない。みんなで支え合っていくんだということを伝える資料を初めて作った。誰がどこかに属するというので、一人ひとり意識を持って高めていけるといいなというところを目標に。病気を持っていても相談に行けない人がいたり、自分が病気だということを家族がキャッチして受診につなげる。こういったことの第一歩のチラシになっている。使えるサービスも書いてある。こういったチラシを7年度活用していくことを事務局は目指している。よろしく願います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。長時間にわたり熱心なご意見頂戴した。今年度はこれで最後の全体会になる。いくつか意見頂戴した。まず部会の意見を頂いた。令和4年度に自分が来た時から、部会の開催の仕方がテーマになっていた。改善が出来てないと感じている。やった感を出すだけではだめ。日にちを設けて開催すればいいではない。次につながる、その中で出てきた意見をしっかりと成果に表していけないといけない。くらし部会が一番の肝である。テコ入れしていくテーマにしたい。積極的な周知、当事者に届く周知の意見を頂いた。団体の要望もある。特に視覚障害者、聴覚障害者の方々、情報伝達にハンディのある方にとって情報を得にくいといった指摘も団体からいただいている。視覚障害者の方には、改正した内容や新たに出来た制度など、個々のメールアドレスにテキストで送るよう心がけている。福祉課だけでなく、保険年金課や高齢福祉課なども含めて心がけているが、担当が代わると疎かになる場合がある。できるだけなくすように努力していきたい。それ以外の方々に対する周知の仕方についても工夫していけないといけない。今日大きく感じた2件。障害分野以外でも市の福祉課として、4月から重層的支援体制の取組として、制度のはざまにあるような方、ひきこもりであったり孤独孤立のテーマを持った方に対する支援をしていこうと、東濃5市の中で初めてスタートした。あと災害のこと。障害を持って避難しづらい方を中心とした、個別避難計画を作るように昨年の4月から、地域や民生委員の方々にも協力してもらい、作ることからスタートしている。最近感じているのが、福祉現場の人手不足の話。最近市内の10法人の集まる会議に参加した。高齢、障害、子育ての現場から、人手がいないという相談を受けた。国規模の賃金引上げの問題などあるが、市としても出来ることはないかと。一つ事例を上げる。上矢作の福寿苑について。人手不足で外国人の雇用が始まっている。福寿園ではミャンマーの方の採用が始まっている。福寿苑の社宅が40年過ぎている。社宅の確保が必要になった。近くに市の市営住宅がある。そこが使い切れていないということで10棟建つ内の3棟を、福寿苑の利用に充てられないかと話し合いを進めた。そういったことで人手不足の寄与が出来る。いろんな声を聞きながら関係部署に繋ぎたい。人手不足の解消につながるようなことになればと思っている。皆様のもとでそういった話があったら、繋げていただきたい。最後に副委員長、お願いします。</p>
副委員	<p>皆様、お疲れ様でした。皆様も年度末で事業のまとめをし、次年度へステップを考えていく時期かと思う。この中で、昨年4月報酬改定があった。皆さん、報酬改定いかがであったか。私も、B型や生活介護、日中支援系に多く関わっている。B型も6:1の人員配置ができたりしているが、基本的には人員の評価での報酬であったり。生活介護も時間制が導入された。全国的なアンケートを見ても概ね、これではやっていけないという現場からの声が多い。報酬が加算などで基本報酬が低いことと言えば、課長が言われたとおり、人材、人を雇用して安心して支援していく体制が取れないということで現場の</p>

	<p>職員が悲鳴をあげていると思う。危険水域に人材問題がいると言われている。その中でも頑張ってみえるが、各団体から要望が上がっていることも含めて、自分たちの大変な現場の状況というものが、現場の職員などにどこまで周知できるかわからないが、ぜひこのままで甘んじるではなく、こんな風にしたいと、国の制度についても考え、声に届けていく。市が受け止めていただけたらというところで、声をだしていく。冒頭古山所長から出来ることから着実にと言われたその言葉は、様々な進捗状況等、新しい仕組みを作っていく。障害者の方の個々の生活にとっては、大きな制度改定でなくても、一つの給付事業の枠が広がったとか。そういうことが生活の中で実感としてあると思う。まず市で出来ることは着実に進めていただく。その大枠は、この計画を作ったもの、絵に描いた餅にせず、大きな理念のもとに進めていくことが大切と思う。障害者関係に限らず、今の物価高騰では、まったく普通の市民生活も含めて、皆さん事業を運営していくことは大変かと思う。大変なとばかりを、グループホームの食費を削るような、営利目的の団体があってはならない。行く場がない、暮らしが不安定でどこか暮らしの場をと求めた時に、こういう営利団体も入り込む隙はある。そんなことにならないように。恵那でも新たな施設が開かれるってことで言えば、地域の中で困ってる人達が私たちの姿を捉えられないといけない。捉えるためにも、それぞれの事業所や部署で、視点を持っていただきながら、合理的配慮という言葉があるが、日常的に皆さんの中に染み込んでいけるように思っている。自立支援協議会、初参加の方も見えるが、ここが機能していくように、年2回の全体会の他にも、役割を果たせるような部会というもの今後みなさんと一緒に考えていけたらと思っています。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。</p>
事務局	ありがとうございました。